

平成16年度 近畿地区公立中学校

# 修学旅行実施状況調査報告書

近畿地区公立中学校修学旅行委員会

財団法人 全国修学旅行研究協会

## 平成16年度 回答状況

(単位:校)

府県名	対象校	回答校	回答率	前年度
大阪府	334	269	80.5%	99.4%
京都府	100	96	96.0%	100.0%
兵庫県	275	246	89.5%	89.5%
滋賀県	97	97	100.0%	91.8%
奈良県	107	100	93.5%	99.1%
和歌山県	139	127	91.4%	99.3%
合計	1,052	935	88.8%	96.1%

隔年実施の学校・項目によっては無記入等があるため、次ページ以下の合計数が回答校数と一致しない場合があります。

比率については原則として、0.5%未満は空欄にしています。

# 平成16年度修学旅行の実施状況について

## 1 実施状況について

### 1-1 旅行実施時期(月別・府県別)

(単位:校)

実施月	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
4月	50	19%	7	7%	58	24%	49	51%	12	12%	4	3%	180	19%
5月	143	53%	57	61%	161	65%	10	10%	70	70%	77	62%	518	56%
6月	67	25%	4	4%	26	11%	25	26%	11	11%	8	6%	141	15%
7月	1												1	
8月														
9月							3	3%			2	2%	5	1%
10月			1	1%					1	1%	32	26%	35	4%
11月			2	2%									2	
12月														
1月											1	1%	1	
2月	7	3%	17	19%			10	10%	3	3%			37	4%
3月	1		6	6%					3	3%			10	1%
合計	269	100%	94	100%	245	100%	97	100%	100	100%	124	100%	930	100%

4月実施が昨年度12%から19%にすこし増加し、6月実施が昨年度20%が15%に減少しています。

### 1-2 月別旅行実施先

(単位:校)

実施月 旅行先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数
北海道	1	13	3										17
東北													
関東・富士・伊豆	33	252	53	1		4	33				6	7	389
信越・信州・中部・北陸	52	38	3			1					26	2	122
中国・四国	6	10					1	1					18
九州	51	75	42					1			4	1	174
沖縄	37	128	39				1			1	1		207
海外		1											1
その他		1	1										2
合計	180	518	141	1		5	35	2		1	37	10	930

信越・信州・中部・北陸方面については、昨年度と比較すると4月昨年8校から本年52校、5月67校から38校、6月37校から3校へと変化しています。

1 - 3 旅行実施先(府県別・旅行先別)

(単位:校)

府県 旅行先	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計		
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	前年度
北海道	2	1%			5	2%	1	1%	7	7%	2	2%	17	2%	2%
東北															
関東・富士・伊豆	45	16%	36	38%	96	39%	60	62%	38	38%	114	91%	389	42%	45%
信越・信州・中部・北陸	67	25%	30	32%	19	8%			5	5%	1	1%	122	13%	16%
中国・四国	10	3%	4	4%	1		2	2%			1	1%	18	2%	2%
九州	53	20%	18	19%	64	26%	26	27%	11	11%	2	2%	174	19%	21%
沖縄	90	34%	6	7%	61	25%	8	8%	39	39%	3	3%	207	22%	14%
海外											1	1%	1		
その他	2	1%											2		
合計	269	100%	94	100%	246	100%	97	100%	100	100%	124	100%	930	100%	100%

例年通り関東地方が多く、全体の42%を占めています。

沖縄は増加傾向にあります。

海外はシンガポールです。

その他の行先は近畿地区内です。

1 - 4 旅行費用(生徒一人当たりの総額。小遣いは含まず)

(単位:円)

額/府県名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	平均額
最高額	73,532	80,000	91,321	56,657	79,238	78,000	
最低額	26,000	36,038	40,000	49,000	32,623	41,175	
平均額	53,269	58,118	57,590	59,003	62,293	59,341	

班別学習・体験学習の数や内容により、価格にかなりの差が出るため、費用の算出は難しい作業となっています。

山間地等のため学校から主要交通機関まで距離がある学校は、費用は高くなっています。

最高・最低額は2泊3日の修学旅行を対象としましたが、平均額は全回答校の平均です。(1-5表も同じ)

1 - 5 旅行先別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

(単位:円)

旅行先/府県名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県
北海道	66,910		75,288	55,000	69,817	81,350
東北						
関東・富士・伊豆	56,958	61,896	60,563	58,015	61,355	58,389
信越・信州・中部・北陸	41,791	49,763	46,707		42,724	41,175
中国・四国	45,540	56,612	57,986	55,390		63,000
九州	55,417	64,278	54,373	61,140	59,067	60,356
沖縄	61,350	60,008	58,057	60,679	65,251	74,285
海外						89,481
その他	17,692					

1 - 6 宿泊地(数字は延べ泊数)

(単位:泊数)

地区	宿泊地名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	泊数合計	構成比
北海道	札幌・小樽・ニセコ	2		6	2	5	4	19	52%
	函館・湯ノ川			1		1	1	3	8%
	洞爺湖・登別	1		3		2	1	7	19%
	層雲峡・阿寒湖・網走								
	富良野・トマム					5		5	13%
	その他	1				2		3	8%
	小計	(4)		(10)	(2)	(15)	(6)	(37)	2%
東北	東北								
	小計								
関東 富士 伊豆	東京都内	11	62	111	76	48	166	474	60%
	TDL周辺・幕張・千葉	40	5	50	16	11	38	160	20%
	富士五湖周辺	29	4	29	20	9	19	110	14%
	箱根周辺	1			1	1	1	4	1%
	横浜周辺	3	1	3		6	7	20	3%
	伊豆周辺	3			3			6	1%
	その他	2		1	1			4	1%
	小計	(89)	(72)	(194)	(117)	(75)	(231)	(778)	42%
信越 信州 中部 北陸	白馬・大町	30	23			6		59	25%
	上高地・浅間・美ヶ原	1					1	2	1%
	白樺湖・蓼科・清里	7			3	1	2	13	5%
	乗鞍高原	12						12	5%
	志賀・黒姫・野沢・妙高	8	26	26				60	25%
	奥美濃・荘川・鷲ヶ岳								
	高山・数河・奥飛騨	6		1				7	3%
	飯田・昼神	24	2	7				33	14%
その他	46		4		2		52	22%	
	小計	(134)	(57)	(38)	(3)	(9)	(3)	(238)	13%
中国 四国	高知県・愛媛県	7		2	1			10	30%
	徳島県・香川県				1			1	3%
	広島県(広島・宮島等)	3	5		1		2	11	34%
	山口県(萩・秋吉台・下関等)	3	2					5	15%
	岡山県(倉敷・鷲羽山等)								
	鳥取県(米子・大山等)	6							
	島根県(隠岐・松江・出雲等)							6	18%
	小計	(19)	(7)	(2)	(3)		(2)	(33)	2%
九州	福岡県(博多・二日市・原鶴等)		2	5	4		1	12	3%
	福岡県(北九州等)	7	3	12	6			28	8%
	長崎県(長崎市内)	50	17	62	23	10	1	163	47%
	長崎県(佐世保・ハウステンボス等)	13		28	9	4	2	56	16%
	長崎県(雲仙・島原等)	5	4	5	2	2		18	6%
	長崎県(壱岐・対馬等)	8		1	3	2		14	4%
	佐賀県(嬉野・武雄等)	1	1		1			3	1%
	大分県(九重・別府・住吉浜等)			1				1	
	熊本県(阿蘇・内牧・杖立等)	6	8	6	1			21	6%
	熊本県(菊地・山鹿・天草等)				1			1	
	宮崎県(宮崎・青島等)			1				1	
	鹿児島県(霧島・指宿・屋久島等)	8		4	2	3		17	5%
その他	8	1	4		2		15	4%	
	小計	(106)	(36)	(129)	(52)	(23)	(4)	(350)	19%
沖縄	那覇市周辺	52	7	27	7	29	5	127	30%
	恩納村・読谷村周辺	57	1	41	6	31	1	137	33%
	名護市周辺	12		10	1	7	1	31	7%
	本部町・今帰仁村周辺	15	4	17	2	5		43	10%
	伊計島・佐敷町	15		6		1		22	6%
	その他	29		21	1	6	1	58	14%
	小計	(180)	(42)	(122)	(17)	(79)	(8)	(418)	22%
その他	その他	3					3	6	
	小計	(3)					(3)	(6)	
	合計	535	178	495	194	201	257	1,860	100%

各小計の比率は1860泊に対する構成比率です。

## 2 修学旅行での体験学習について

### 2-1 体験学習の実施状況

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
実施している	248	92%	80	85%	199	81%	92	95%	84	84%	71	57%	774	83%
実施していない	21	8%	14	15%	47	19%	5	5%	16	16%	53	43%	156	17%
合計	269	100%	94	100%	246	100%	97	100%	100	100%	124	100%	930	100%

体験学習をしている学校は昨年度83%、一昨年度81%となっています。

### 2-2 体験学習の学習形態(複数回答可)

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
学年全体	115	30%	30	26%	92	32%	36	26%	44	34%	42	46%	359	31%
学級	81	21%	21	18%	45	16%	19	14%	26	20%	1	1%	193	17%
班別	158	41%	52	45%	125	44%	57	42%	44	34%	48	52%	484	42%
男女別	7	2%	1	1%	6	2%	1	1%	1	1%			16	2%
個人	21	6%	12	10%	19	6%	23	17%	15	11%	1	1%	91	8%
合計	382	100%	116	100%	287	100%	136	100%	130	100%	92	100%	1,143	100%

各校の班の数や男女別等の数をすべて集計するのではなく、学級(4cl)単位での学習と各学級6班ずつ(4cl×6班=24班)の学習を併用した学校では、学級(I)と班別(I)として集計しています。

### 2-3 体験学習の所要時間(複数回答可)

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
60分以内	11	4%	3	4%	20	10%	4	4%	4	5%	19	27%	61	8%
120分以内	44	18%	20	25%	50	25%	30	33%	23	28%	26	37%	193	25%
180分以内	88	36%	21	26%	70	35%	39	42%	34	40%	11	16%	263	34%
240分以内	45	19%	8	10%	24	12%	10	11%	11	13%	6	8%	104	14%
300分以内	20	8%	4	5%	7	3%	9	10%	5	6%	2	3%	47	6%
360分以内	15	6%	6	8%	10	5%			2	2%	6	8%	39	5%
420分以内	5	2%	1	1%	5	3%			1	1%			12	1%
480分以内	7	2%	2	2%	6	3%			4	5%	1	1%	20	2%
481分以上	13	5%	15	19%	7	4%							35	5%
合計	248	100%	80	100%	199	100%	92	100%	84	100%	71	100%	774	100%

複数回答としましたが、各校の最長時間で集計しました。

480分以上はスキ - 実習がほとんど占めています。

## 2 - 4 体験学習の内容(複数回答可:資料 参照)

(単位:校)

区分	分類	区分	分類	NO	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	合計
A	歴史文化体験	A1	歴史文化遺産体験		48	10	41	19	9	8	135
					22	4	27	11	7	3	74
		A2	生活歴史文化体験		16	4	20	4	10	3	57
					64	22	56	26	28	8	204
B	社会体験	B1	一般社会 職場体験		3	6	28	27	15	27	106
					6	14	36	30	11	31	128
					1	3	10	4	3	3	24
		B2	福祉 ボランティア		1	1	1	5		3	11
					1	1	1		1	1	5
		B3	平和学習		98	13	70	25	33	11	250
					19	5	16	5	7	7	59
		B4	国際社会体験		1	2		1			4
					2	10	4	8	4	8	36
		B5	進路選択体験		1	6	6	3	2	2	20
	1			4	5	3		3	16		
B6	生活文化体験		49	5	33	1	6		94		
			3						3		
			8	2	2	4	2		18		
C	環境保全 共生体験	C1	自然環境体験		38	5	23	11	8	3	88
					1		1	1		1	4
							4	3			7
		C2	生活・社会 環境体験		1	4	1	3	1	2	10
						2	1	4		2	10
						1		3			9
C3	地球環境体験			2		1			3		
									4		
D	交流体験	D1	交流体験		2		1	1	1	2	7
							1		1		2
					4		3	4			11
E	自然 スポ - ツ 体験	E1	陸		12	20	15	1	4		52
					2	1		2	1		6
					11	5	7	3	2		28
					11	6	5	4	4		30
					1		1				2
					11	7	5	4	2		29
					14	1	2	8	4		29
					25	7	7	7	4		50
		E2	海・湖・川		66	11	32	12	18	1	140
					73	11	16	4	11		115
					29	7	13	17	7		73
					51	1	19	7	13		91
					3			1			4
					11	1	6	1	2		21
					3						3
		E3	空		4		1		1		6
					21	4	2	7	3		37
			4				1		5		
合 計					742	209	522	293	226	130	2,122

複数班が同一内容の体験学習をしている場合は1としてカウントしています。

各学校の工夫で内容は多岐にわたっています。(5テ - マで30班に分かれて実施している学校もあります。)

**修学旅行における体験学習の分類**

財団法人 全国修学旅行研究協会

区分	分類	区分	分類	NO	内 容				
A	歴史文化体験	A 1	歴史文化遺産体験		歴史遺産...世界文化遺産、建造物、仏像、庭園、古墳、遺跡 文化遺産・芸能...宗教、民俗、伝統芸能、祭				
		A 2	生活歴史文化体験		伝統文化...町並み保存、歴史街道、民具、生活用品 創作...民芸品、食品、菓子、陶芸、絵付け、染色、漆器				
B	社会体験	B 1	一般社会 職場体験		行政・政治...国会議事堂、裁判所、官庁等訪問、大臣・知事懇談 産業...公的施設、会社、工場、新聞社、出版社、テレビ局等訪問 社会・勤労体験学習...テ-ブルマナ-、商店街等での売り子体験学習				
		B 2	福祉 ボランティア		福祉...福祉施設・健康施設見学 ボランティア...ゴミ清掃、老人・障害者介護体験				
		B 3	平和学習		戦争体験...広島・長崎、原爆体験、沖縄戦跡、東京空襲体験 平和活動...平和NGOとの懇談、核廃絶施設見学、軍事基地				
		B 4	国際社会体験		国際交流...外国人学校交歓 国際理解...大使館訪問、外人向け観光バス試乗、国際関連機関				
		B 5	進路選択体験		学校訪問...大学訪問 企業訪問...志望企業訪問、先輩訪問、勤労体験プラザでの学習				
		B 6	生活文化体験		農業...田植え、稲刈り、収穫、りんごの花粉付け、摘果、ファ-ムステイ 林業...植樹、植林、下草刈、 漁業...地引網、養殖				
C	環境保全 共生体験	C 1	自然環境体験		自然観察 自然保護 世界自然遺産 スペ-スキャンブ				
		C 2	生活・社会 環境体験		エネルギー - ゴミ処理 排水 リサイクル				
		C 3	地球環境体験		地球温暖化現象 海洋汚染				
D	交流体験	D 1	交流体験		学校間交流 姉妹校訪問 都市と田舎の交流 ホ-ムステイ				
E	自然 スポ-ツ 体験	E 1	陸		スキ - 登山 トレッキング マウンティンバイク ネイチャ-ゲ-ム 乗馬 探検 その他				
				E 2	海・湖・川		カヌ- ラフティング フィッシング シュノ-ケリング ダイビング ウオッチング 無人島の生活 ガタリンピック		
						E 3	空		パラグライダー - 熱気球 凧揚げ



### 3 主要交通機関について

#### 3 - 1 集約列車の利用状況

(単位:校)

府県 利用状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
集約列車利用する	19	7%	14	16%	104	43%	0	0%	2	2%	60	50%	199	22%
集約列車を利用しない	245	93%	76	84%	137	57%	94	100%	97	98%	60	50%	709	78%
合計	264	100%	90	100%	241	100%	94	100%	99	100%	120	100%	908	100%

和歌山県は和歌山県中学校長会が主体となる連合輸送である。

#### 3 - 2 集約列車を利用しない場合の交通機関

(単位:校)

府県 交通機関	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計		
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	
往路	列車	66	27%	36	47%	36	26%	83	89%	39	40%	28	47%	288	41%
	航空機	106	43%	10	13%	82	60%	10	11%	53	54%	29	48%	290	41%
	船舶	1												1	
	バス	72	30%	30	40%	19	14%			6	6%	3	5%	130	18%
	小計	245	100%	76	100%	137	100%	93	100%	98	100%	60	100%	709	100%
復路	列車	55	23%	20	26%	32	23%	82	88%	34	35%	6	10%	229	32%
	航空機	109	45%	25	33%	85	62%	9	10%	54	55%	47	78%	329	47%
	船舶	2	1%			1	1%			3	3%	1	2%	7	1%
	バス	76	31%	31	41%	19	14%	2	2%	7	7%	6	10%	141	20%
	小計	242	100%	76	100%	137	100%	93	100%	98	100%	60	100%	706	100%

近修委(集約輸送)離れが進んでいます。理由は航空機利用の増加や学校の立地条件等が考えられますが、集約以外の新幹線利用については、経費節減の観点から検討の余地があると考えます。

## 今後の修学旅行に対する考えをお聞かせ下さい。

### 1 今後(数年先)の修学旅行の訪問地について

1-1 旅行先の変更について(数年以内)

(単位:校)

府県 変更状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
旅行先を変えない	140	54%	59	64%	120	50%	50	52%	61	61%	90	73%	520	57%
旅行先を変える	46	18%	18	19%	34	14%	20	21%	11	11%	5	4%	134	14%
検討中	73	28%	16	17%	88	32%	26	27%	28	28%	29	23%	260	28%
合計	259	100%	93	100%	242	100%	96	100%	100	100%	124	100%	914	100%

旅行先変更・検討中については42%が可能性があるとしています。(昨年度38%、一昨年度59%)

体験学習や班別学習の重視・総合的な学習の時間との関連等新しい修学旅行を模索するという観点から変更を検討していると考えられます。

1-2 上記で「変える」と答えた学校の旅行先

(単位:校)

府県 旅行先	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
北海道	5	11%	1	6%	6	22%					1	25%	13	12%
東北														
関東・富士・伊豆	3	7%	11	76%	5	19%	3	20%	3	60%			25	22%
信越・信州・中部・北陸	11	24%	1	6%	2	7%							14	13%
近畿														
中国	3	6%					1	7%			1	25%	5	4%
四国	2	4%											2	2%
九州	3	6%	1	6%	4	14%	3	20%			1	25%	12	11%
沖縄	19	42%	1	6%	10	38%	8	53%	2	40%	1	25%	41	36%
その他														
検討中														
合計	46	100%	15	100%	27	100%	15	100%	5	100%	4	100%	112	100%

充実した修学旅行をさせたい(総合的な学習の時間と関連させてという学校もある)との思いから、検討していることが伺えます。検討の主な理由は下記の通りです。

沖縄県の場合は、平和学習・マリンスポーツ・伝統工芸体験等を目的としている。

九州のほとんどは、長崎県である。(平和学習)

環境学習・ボランティア・自然体験・国際理解等を重視したい。

企業訪問・職場訪問・大学訪問等をして、進路選択につながる旅行を考えたい。

地元で体験できないものを体験させたい。

旅行先での交流を重視したい。

# インタ - ネットの活用について

## 1 修学旅行にインタ - ネットを活用していますか。

### 1 - 1 活用の状況

(単位:校)

府県 活用状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
活用している	227	85%	79	84%	207	87%	88	92%	86	86%	111	89%	798	87%
活用していない	40	15%	15	16%	31	13%	8	8%	14	14%	14	11%	122	13%
合計	267	100%	94	100%	238	100%	96	100%	100	100%	125	100%	920	100%

活用している学校は年々増加しています。(昨年84%、一昨年76%)

### 1 - 2 活用の内容(複数回答可)

(単位:校)

府県 活用内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
計画・立案の情報収集に	144	39%	52	38%	152	42%	63	43%	62	40%	94	50%	567	42%
生徒の事前学習に	192	51%	70	52%	168	47%	75	51%	66	43%	87	46%	658	48%
学校家庭旅行先との連絡に	20	5%	7	5%	22	6%	4	3%	11	7%	4	2%	68	5%
まとめとしてHPを作成	20	5%	6	4%	15	4%	5	3%	14	9%	2	1%	62	5%
その他			1	1%	2	1%			1	1%	1	1%	5	
合計	376	100%	136	100%	359	100%	147	100%	154	100%	188	100%	1,360	100%

活用内容は昨年度と傾向は変わっていません。

# 修学旅行のねらいについて

## 1 貴校ではどのような「ねらい」を重視されましたか。

1 - 1 ねらい(複数回答可)

(単位:校)

ねらい	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
集団宿泊訓練	133	14%	47	14%	86	9%	42	11%	39	12%	56	12%	403	12%
班行動による協力の心の育成	193	20%	67	20%	195	22%	68	18%	68	19%	92	19%	683	20%
公衆道徳の習得	84	8%	36	10%	103	11%	37	10%	38	11%	68	14%	366	11%
教科学習の発展	32	3%	14	4%	20	2%	22	6%	9	3%	23	5%	120	3%
総合的な学習の内容の深化	180	18%	44	13%	148	16%	66	17%	57	16%	58	12%	553	16%
見聞を広め、知識の習得	131	13%	53	16%	165	18%	56	14%	57	16%	96	20%	558	16%
生徒間の人間関係づくり	192	20%	63	18%	161	18%	69	18%	68	19%	78	16%	631	18%
府県 ねらい	31	3%	11	3%	26	3%	20	5%	9	3%	13	2%	110	3%
その他	9	1%	8	2%	5	1%	5	1%	4	1%			31	1%
合計	985	100%	343	100%	909	100%	385	100%	349	100%	484	100%	3,455	100%

ねらいは昨年度と同傾向にあります。

その他では「平和学習」が17で最も多くなっています。

# 修学旅行と教科や他の教育活動との関わりについて

## 1 修学旅行と「教科や他の教育活動」との関わりを持たせましたか。

### 1 - 1 関わりの状況

(単位:校)

府県 関わりの状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
はい	238	90%	81	85%	224	85%	90	94%	83	85%	108	88%	824	89%
いいえ	27	10%	14	15%	20	15%	6	6%	15	15%	15	12%	97	11%
合計	265	100%	95	100%	264	100%	96	100%	98	100%	123	100%	921	100%

関わりがあったとした学校は、昨年(88%)、一昨年(84%)と増加傾向にある。

## 2 関わりを持たせたのは次のどれですか。

### 2 - 1 教科内容(複数回答可)

(単位:校)

府県 教科内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
国語	14	3%	1	1%	6	2%	1	1%	2	1%	2	1%	26	2%
社会	66	17%	20	18%	64	17%	32	22%	26	18%	36	24%	244	18%
数学														
理科	14	4%	6	5%	6	2%	6	4%	5	3%	2	1%	39	3%
英語	2	1%	1	1%	2	1%	1	1%			2	1%	8	1%
保健体育	3	1%	8	7%	6	2%	2	1%	1	1%			20	2%
音楽	4	1%			5	1%	1	1%	1	1%			11	1%
美術	6	2%			4	1%	2	1%	1	1%			13	1%
技術家庭	3	1%			4	1%	1	1%					8	1%
道徳	35	9%	9	7%	67	18%	9	6%	30	21%	21	14%	171	13%
総合的な学習の時間	228	60%	70	61%	205	55%	88	62%	75	52%	87	57%	753	57%
特別活動	3	1%							3	2%	3	2%	9	1%
その他					1								1	
合計	378	100%	115	100%	370	100%	143	100%	144	100%	153	100%	1,303	100%

## 3 「総合的な学習の時間」と関わらせた学習内容は次のどれですか。

### 3 - 1 学習内容(複数回答可)

(単位:校)

府県 学習内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
国際理解学習	31	5%	19	11%	29	6%	15	7%	12	7%	21	11%	127	7%
情報学習	43	6%	18	11%	55	11%	18	9%	17	10%	32	18%	183	10%
環境学習	58	10%	25	15%	42	9%	26	12%	11	7%	15	8%	177	10%
福祉・健康学習	4	1%	6	4%	8	2%	6	3%	3	2%	10	5%	37	2%
奉仕・ボランティア	9	2%	3	2%	5	1%	5	2%	3	2%	2	1%	27	1%
農村漁村の学習	34	6%	3	2%	7	1%	5	2%	2	1%			51	3%
地域文化の学習	113	20%	33	19%	106	21%	25	12%	36	21%	33	18%	346	20%
平和学習	141	25%	16	9%	110	22%	46	22%	47	28%	28	15%	388	22%
地域の産業学習	56	10%	16	9%	41	8%	20	10%	11	7%	9	5%	153	8%
日本の歴史・文化の学習	75	13%	27	16%	87	18%	40	20%	24	13%	32	17%	285	16%
その他	9	2%	4	2%	3	1%	4	1%	3	2%	4	2%	27	1%
合計	573	100%	170	100%	493	100%	210	100%	169	100%	186	100%	1,801	100%

その他では「進路について考える」が6と最も多くなっています。

4 修学旅行と「総合的な学習の時間」の時数の関わりについてお答え下さい。

4 - 1 修学旅行を「総合的な学習の時間」の時数としてカウントしましたか。 (単位:校)

カウント状況	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
カウントした	243	93%	68	82%	223	96%	89	95%	76	90%	86	85%	785	92%		
カウントしなかった	18	7%	15	18%	9	4%	5	5%	8	10%	15	15%	70	8%		
合計	261	100%	83	100%	232	100%	94	100%	84	100%	101	100%	855	100%		

4 - 2 修学旅行を「総合的な学習の時間」の時数としてカウントしたのは次のどの場面ですか。 (単位:校)

カウント場面	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
事前学習の時間	69	22%	17	21%	60	22%	28	23%	14	15%	32	27%	220	22%		
旅行中の学習	44	14%	11	14%	20	7%	31	26%	9	10%	21	18%	136	14%		
事後学習の時間	25	8%	5	6%	26	10%	9	7%	6	7%	13	11%	84	8%		
事前・事後学習の時間	118	39%	34	42%	137	50%	33	27%	42	46%	32	27%	396	40%		
事前旅行中事後全ての学習の時間	52	17%	14	17%	29	11%	20	17%	20	22%	20	17%	155	16%		
合計	308	100%	81	100%	272	100%	121	100%	91	100%	118	100%	991	100%		

(一部複数回答あり)

「事前・旅行中・事後全ての学習の時間」の「全て」を「一部」にして回答している学校、またそれに近い注釈をつけて回答している学校が数校ありました。他の項目でも同じ考えで回答した学校も多いと推測されます。

## 体験学習についてのご意見等 (いくつかのご意見等をまとめた所もあります。)

農業体験をすることにより、沖縄の人と触れ合い、沖縄の自然や生活を知ると共に感動を得ることが出来た。また特有の自然・文化・歴史をバランスよく学習出来る沖縄での体験は、総合的な学習ともリンクしやすくよい。

被爆体験を直接聞くことが出来て大変よい勉強になった。

沖縄での説明が生徒によく理解できるよう、わかりやすい説明を望む。

長崎での碑巡りについて。学級に一人語り部さんについてもらったが、年々語り部さんが減っているので確保等が難しい。市内オリエンテーリングをしているが、自由に乗り降り出来る自由券がほしい。

生徒の希望等を優先したので、全員自主的に取り組むことが出来た。(費用が少し高くなったが)毎年、沖縄戦の追体験や講話、セレモニー等貴重な体験をしています。しかし、戦争体験者の高齢化は深刻です。今年始めてガイドが学生平和ボランティアになりました。一生懸命な姿には感動しましたが、やはり緊迫感が違います。戦争体験の継承をどうしていくのか?ひめゆり部隊の方のお話しに感動する子供たちを見てよけい感じました。たくさんの体験もしましたが、体験内容によってはかなり高額なものもあり、今後の検討課題だと考えます。

関東地方での伝統文化体験(大笑いタレント体験、伝統民芸品・菓子の制作)は大変よかった。しかし、体験場所の担当者によって準備が大変よくできているところと準備がとても不十分な所とがあり、事前の調査が必要だと感じた。

青年海外協力隊・ユネスコ等国际的に活動されている方から経験談を直接聞くことができ生徒にとっては印象に残る学習となった、事後活動にうまく生かせなかった。

JICA や国際協力プラザを訪問して、日本の国際貢献の実態が理解できた。十分な事前学習が出来ていたので、有意義な修学旅行であった。

長崎の原爆資料館は展示内容がよく、生徒に平和の大切さを具体的に理解させることが出来た。西海パールシーリゾートではヨット・カヤックを初体験。雨天の場合の別メニューもあり安心。スペースロッジでは日常体験できない宇宙体験活動ができ、生徒にとって興味深いものとなった。学年規模(生徒数約300名)により、体験学習の受け入れが限定される。

農業体験(搾乳・バター作り)は、関心のある生徒と関心の薄い生徒があり、難しい。

日本航空(株)での学習では、飛ぶ仕組みや整備についての知識や理解を深めることができた。見学中心であったので、実動体験を取り入れる必要性を感じた。

ラフティングは天候に左右されやすく、安全面での配慮が必要と感じた。

首都を訪れることは貴重な体験だと思う。(国会議事堂・各省庁等)テロ等の影響もあり、大使館の訪問が難しかった。

宿泊施設に講師を招いて平和講話をしてもらったが、被爆体験者の思いや平和への願いが生徒によく伝わって、涙を流して聞く生徒も多く、心の財産となった。

班毎のテーマ設定で、筋道を立てて学習する姿勢が育まれる。課題は学習のために時間の確保をどうするか、である。

沖縄の歌に触れると言うことでライブコンサートと芭蕉布の作曲者との交流会をした。多くの人との出会いで、旅の楽しさ、調べることの楽しさを感じたようです。費用が高くなるのが難点です。

施設見学で終わる場合は、生徒に目的意識が育たない。体験学習をすることにより、目的意識が高まる。

体験学習は事後学習の資料作りに役に立った。本校校区は観光産業が主となるが、将来の展望を探るヒントを得た。

生徒は島育ちであるので、都市体験に主眼を置いている。

班別活動は生徒が主体的に取り組んだが、テーマをもっとはっきりさせるべきであった。

都内一日班別学習が初体験で不安があったが、生徒は立派に学習した。生徒の計画性・行動力・協調性に驚いている。

山間部の学校であるので、マリンスポーツを体験させた。天候に左右されるので、悪天候の場合の手立てをしっかりとる必要がある。

一般社会体験では、新聞の製作過程やレイアウト技術を学んだ。今後は自然体験や交流体験を取り入れたい。

長崎では、学校が学んでほしいことと生徒が主体的に学習することの両方がうまくできた。

青木ヶ原樹海では貴重な自然体験ができた。生徒の自然に対する感動も大きかった。自然学校の形式になっておりインストラクターの指導もよかった。

体験学習は個人選択の形態をとったので積極的に参加した。(沖縄)

ガタリンピックには抵抗のあった生徒がいたが、参加した生徒には好評でした。

スキー実習だけでなく、ジャンプ台にのぼること、農産物の加工も体験することで高原の生活について広く理解することができた。

体験学習といえどもお膳立てのメニューのため本格的な体験学習にならない。

事前学習が充分できていなかったため、物見遊山になってしまった。

平和学習について一応の学習はできたが、見学・体験場所が広範囲になったため深化が図れなかった。今後は、移動を少なくして内容を充実させたい。

事前準備を前年度からしないと公共施設の予約ができない。小規模校で学年担任が変わる場合は無理である。

隠岐西ノ島では、島内での宿泊が本校一校であったので、すべての面で余裕を持ってスムーズに充実した活動を行うことができた。

沖縄での体験は本物に出会うと言うことで生徒の心に強く残りました。特に真暗なガマでボランティアガイドさんのお話が聞け、映像や読み物だけでは感じられない五感すべてを使っただけの記憶として強く残ったと思う。コース別体験も個人選択で関心のある事に取り組めたので、有意義な体験ができた。沖縄が身近に感じられた。

来年度はファームステイで漁業体験も組み入れたい。体験学習は人と触れ合い、本物と触れ合う貴重な機会となっている。

大阪では体験できないマリンスポーツには生徒が積極的に参加し、級友との協力等により得たものも多く評価できる。課題は天候に左右されること、雨天時のプログラムである。

熱気球体験など個人では体験できない事ができて好評であった。時間的な制約があり課題もある。

(阿蘇)

体験による学習効果は大きく、更に事前指導などを充実させ効果をあげていきたい。小グループでの体験活動を取り入れたい。

学校や都市での生活ではできない体験をすることは大変有益であるが、広島平和公園での混雑を解消する方法はないだろうか。

ラフティングや物作り体験は好評であるが、不参加者の対応をどうするかが課題である。

訪問先を決め、アポイントを取ること、現地で実際に訪問すること等すべて生徒がした点はよかった。安全の確保をどうするかが課題。(長崎)

アイヌ民族文化、音楽、料理、歴史に触れることができてよかった。また、自然への畏敬の念を抱かせることもできたが、日程の関係で短時間になった。事前学習のあり方と共に今後の課題である。

ファームステイを実施する飯田地方の人气が高くスケジュールに余裕がない。また、体験の料金が高額になっている。

過密なスケジュールで多くのメニューを欲張って計画しない方がよい。体験についての事前学習・事前指導をじっくりするかどうかで学習成果が違ってくる。

牧場体験では牛のぬくもりや普段飲んでいる牛乳がどのような過程で作られるのか、更に生産者の苦勞を含めて学ぶことができた。

沖縄でのマリン体験について、種目によっては保護者に安全面での不安感を与えるものもあり、時間をかけて安全性を説明する必要がある。また、当日体調によりキャンセルすることは当然出てくるが、高額な料金のキャンセル料の扱いが業者により異なり大変困った。

体験学習を取り入れることで数人のリーダーが育った事もよかった。



一日は自分の将来について考える「夢さがし」として企業・大学・各種機関等への訪問、半日は自分の趣味・興味に沿った体験を実施している。「夢さがし」については、進路指導の一環として事前学習・事前準備を大切にしている。

大阪から南紀は近いいため多くの体験活動を実施することができた点はよかった。ただ一種目だけ少し離れた所にあるのが課題。

その道の専門家から話しが聞ける。実体験により強い興味が持て、印象にも残る。

限られた日程の中で、準備や当日も時間が多くとられることが課題。

内陸部にある学校であるので、来年度から漁村での体験を取り入れる計画である。

生徒は選択するという方法で参加するが、望ましいのは企画から参加できることではないか。

安全面での対策が課題となっている。

班別体験学習は20班に分かれて実施したが、都内の乗り物は多種多様で、事前学習は充分したが、予定通りには行かなかったためその後の行程に支障を来した。

環境保全とふるさとの恩恵の再確認。異文化理解とふるさとへの愛着。

班活動の基本ルールは概ね守れていた。しかし、学習目標を意識した観察・訪問等が充分なされていたとは言えない点も見られ、事前学習の工夫の必要性を痛感した。

世界平和で最も大きな核についての体験としてはいいが（第五福龍丸）どれだけ理解できたか疑問はある。国会についても将来に亘り個人として訪れることのできない国の中核であることも理解できたかの課題はあるが、将来を生きる生徒にとって大変有意義なものとする。

観劇は普段生徒が体験できない事で大変印象が強く「感動した」という意見が多かった。

資料やインターネット等で掲載されていない事柄について施設の担当者に質問したり、直接掲示物や映像等を見ることで、新たな知識や感動を得ることができた。

体験学習やフィールドワークなど実施したいと考えているが、普段登校しにくい生徒の中には、班行動があるとそれがネックになって参加が難しくなる等課題がある。

単なる観光旅行ではなく、班毎に自分たちで計画を立て、地図を片手にメトロに乗って予定した各施設を訪問することで、様々な体験をすることができ、印象深く有意義な修学旅行ができた。

「いのちの時間」と名付けた総合的な学習の時間の一環として、長崎で平和体験学習を実施した。

それを元に平和について考えさせ、文化発表会でPCを使ったプレゼンテーションや劇として発表した。今後も平和学習を中心として修学旅行を進めていきたい

海に面しない県であるので、沖縄でマリンスポーツを体験することは生徒にとって貴重なものとなる。

アウトドアスポーツの体験を取り入れて7年目になるが、生徒の希望を第一に考えて種目を設定するので、生徒は満足している。しかし少数過ぎる班・希望が殺到する班があり調整が難しいので、8～10種目に限定した。

池袋防災館では、体験プログラムが準備され整った施設での体験ができ有意義であった。

日本科学未来館については、生徒の意欲・関心を一層高めるための事前学習の充実や見学時のワークシートの用意などの指導方法の工夫を図ると、より良い学習効果が上がると思われる。

英語学習の発展と多文化交流学習をねらいとしてすすめたが、積極的な英会話や身ぶり手ぶりでのコミュニケーション能力が発揮できたことが成果であった。また、20カ国の人たちとの交流により多文化理解も進められた。課題は外国の人たちの派遣の調整であった。

体験したい施設が曜日の関係で休業のところが多くあった。従って希望の曜日に修学旅行が実施できるよう要望します。

JICAでは、海外青年協力隊員から派遣国について生活・文化・職務の内容について詳しく話しが聞けて、理解が深まった。

事前・事後学習に生かすことが目的であり、総合的な学習の一環として位置づけている。その点においてはとても勉強になり活用できる取り組みとなった。課題別に訪問先を考えているが、内容や受け入れ先の資料が多くあればありがたい。（5テーマ、30班の学校）

自然現象・災害等のように目を当たりにすることができ、印象に残り、深く考える機会となった。班別行動も地元の人たちと触れ合ったり、交通機関を利用することでマナーを学ぶことができた。事前・事後学習が充分とは言えず、歴史的価値等をよく理解できずにいる生徒もいた。

（長崎・普賢岳等）

## 修学旅行等についてのご意見（いくつかのご意見をまとめた所もあります。）

本校の修学旅行は、1学級1民宿で、体験的な活動を中心にしている。見学的な要素は入っていない。この方式は今年で20回目を迎えたので、見直す方向で検討委員会において「生徒にとってどのような修学旅行がよいのか」について協議を重ねたが、従来の方法を続けることになった。保護者からは体験活動中心の修学旅行（現行）を望む声が圧倒的に多かった。

中学校3年間及び小学校・高等学校の宿泊行事等を総合的に見通した修学旅行の必要性が生じているため、今後見直しを検討したいと考えている。

年々多様化が進む中、校長会の修学旅行専門委員会活動も大変だとは思いますが、教育性・安全性・利便性を確保できるようよろしくお願ひしたい。特に航空機利用については一層のご配慮をお願いします。また、学校の計画通りに受け入れられ、修学旅行の目標が達成されるよう本委員会のご努力とご協力を願ひたい。

テロ等で安全面も考えなければいけない時代。時代にあった修学旅行の目的・内容・方法等しっかり考えなければいけないと思う。料金面では2泊で5～6万円は団体旅行であるのに高額すぎると考える。（個人のパック旅行はもっと安い）

修学旅行臨時便が廃止されるとの話もあるが、当地方では連合で実施しているので、希望の日時、余裕ある座席確保をお願いします。

一日目に「ふりそでの少女」の作者の話聞き、資料館見学。2日目班別に分かれ、語り部とともに被爆地を訪ね歩いた。学習のために修学旅行に行ったという感じが強く、その後の作文（人権）や生活に影響を与えた充実した旅行となった。

新しいことに取り組むのは難しいが、本校の修学旅行は見直しの時期に来ていると思う。検討のための多くの情報がほしい。

長い間長崎方面に行き渡辺司氏の一人芝居で平和学習を続けてきたため、氏とはつながりも深まり多くのことを学んだ。今年行き先を検討した結果、東京方面に決まったが、事前学習には時間がかかりそうで、授業時間の確保が難しくなる。

最近の社会の情勢の影響で、高額な費用が伴う修学旅行は難しくなっている。年によっては参加できない生徒あり大きな課題と考えている。

18年度以降3年間の方面について検討した。当地方では航空機利用は許可されておらず行動範囲も狭いが、関東を中心にマンネリ化しないよう、また、総合的な学習の時間ともリンクさせながらよいものに仕上げたい。

この調査結果が学校現場及び生徒により良く反映されることを期待しています。

70人以上いた生徒が今年は約50人。一人当たりの費用が高くなりがちです。質を落とさず費用を押さえるのに苦労しました。今後も生徒数は減少するので、保護者の負担をどう少なくするかが大きな課題です。

都内班別活動をメインに、大使館・大学訪問等や他に学級毎に体験学習を計画して取り組んできたが、国際情勢の影響を考え宿泊地・2日目の活動内容を大幅に変更した。そのため、都内主要官公庁の訪問はできなくなってしまった。

行き先はあくまでも首都であるべきと考えます。宿舎は大部屋と個室を1泊ずつで両方を体験させるべき。片道新幹線、片道航空機の両方を体験させるのもよい。

修学旅行も見学中心のものから、体験を入れていく工夫や努力が大切。授業時数との関係でどのように対応しているのか、実践事例など発刊してほしい。

沖縄方面への修学旅行用航空機の増便が急務です。

修学旅行に関係するすべての時間を「総合的な学習の時間」にカウントすることは難しいと考える。（ご意見欄のすぐ上の、『修学旅行と「総合的な学習の時間」の時数の関わりについてお答えください』の項に関するご意見と考えます。他にも同じご意見をいただいています。来年度から誤解を生まない尋ね方にしたいと考えています。）

業者選定に際して入札制にしているが、決定までかなりの時間と労力がある。沖縄など航空機を利用した修学旅行が増えているが、それが流行ようになってほしくない。修学旅行の原点で考えるべきである。

当地方では就学援助金が前年度より低くなるため、見直しを行っている。遠距離の修学旅行は無理であるし、高価な体験も見直している。

生徒全員が何らかの役を分担し、学級の枠を越えて活動している。

体験学習の分類を簡素化してはどうか。

本校では平和学習を柱に教育実践を行い、まとめとして修学旅行で長崎を訪れている。目的が明確であり、生徒も目標を目指して日々取り組みを進めている。しかし、最近「体験」させればいいと安易な方向に流れているように感じる。

他校がどのような修学旅行をしているのか（場所・目的）を一覧にして教えて頂ければ今後の参考になると思う。

沖縄方面を検討しているが、航空機の確保がかなり困難と聞いている。列車の集約と同じ調整ができればありがたい。

最近の修学旅行は遠隔地を目指すことが多くなったが、如何なものか。本校ではなるべく費用を安くすし体験学習を重視している。

体験についての項があったが、「体験学習」をどこまでの範囲で考えるのが難しい。規定してもらおうと応えやすいと思います。

旅行団という形式ではなく、学校単位で自由に行き先を選択する方法を探ってもよいのではないか。

近修委の集約列車を利用させて頂いておりますので、費用の面で大変助かっております。ただ、一年生で日程が決定するため学校全体の行事等を計画する際無理が生じることも事実です。

平成16年度修学旅行実施状況調査のうち二学期制に関する調査

			大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	合計
調査	1	(1)	1						1
		(2)	3	2	2	2	1	4	14
		(3)		4		1		8	13
	2	(1)	11	1	2			1	15
		(2)	4			1		2	7
		(3)	14					3	17
	3		227	83	233	93	98	105	839
4		9	1	7			4	21	
調査	1			2	1	1	1	4	9
	2			4	1	1		7	13
	3			1					1
	4		1						1
調査	1	(1)		1			1	3	5
		(2)							
		(3)		1			1		2
		(4)							
		(5)						1	1
		(6)							
		(7)							
	2			4	2	2		8	16
3							1	1	
調査	1			4	3	3		4	14
	2				1			2	3
	3				1				1
	4			1					1
回答校数			269	94	246	97	100	127	933
学校数			334	99	275	97	107	139	1051
回収率			80.5%	94.9%	89.4%	100%	93.4%	91.3%	88.7%

回答校数と調査の合計数・各調査項目間の数が合致しないのは、提出洩れ・回答洩れ・無記入等があるためです。

## 二学期制の導入と修学旅行の動向について

(お手数ですが、ご協力くださるよう御願います。)

記入方法

- 1 各調査項目について、該当する番号を で囲んでお答えください。
- 2 [ ] 内には、具体的な内容をお書きください。

### 調査

貴校は二学期制を導入していますか。

- 1 導入している。  
(1) 14年度以前から (2) 15年度から (3) 16年度から
- 2 今後導入する計画がある。  
(1) 17年度から (2) 18年度から (3) 19年度以降に
- 3 今のところ導入する計画はない。
- 4 その他 [ ]

二学期制を導入している場合は、次の調査 にお答えください。

### 調査

二学期制を導入するにあたり、学校行事を見直しましたか。

- 1 全面的に見直した。
- 2 一部を見直した。
- 3 見直しをしなかった。
- 4 その他 [ ]

調査 で1または2と答えられた学校は、次の調査 にお答えください。

### 調査

修学旅行について見直しましたか。

- 1 見直した。  
(1) 実施時期を変更した。 [ ]  
(2) 実施学年を変更した。 [ ]  
(3) 行き先を変更した。 [ ]  
(4) 実施日数を変更した。 [ ]  
(5) 内容を変更した。 [ ]  
(6) 修学旅行をやめた。  
(7) その他 [ ]
- 2 特に見直さず、従来とほぼ同じ。
- 3 その他 [ ]

二学期制を導入する計画がある学校は、次の調査 にお答えください。

### 調査

二学期制を導入するにあたって、修学旅行についてどのようにお考えですか。  
(複数回答可)

- 1 従来とほぼ同じ。
- 2 実施時期を変更して実施したい。
- 3 実施学年を変更して実施したい。
- 3 行き先を変更して実施したい。